

あなたの授業をさらに充実したものにしませんか？

～委託研究員制度のご紹介と委託研究員経験者からのメッセージ～

一般財団法人

日本私学教育研究所

-The Education Institute for Private Schools in Japan-

私学教育の更なる発展のためにあなたも実践研究を行いませんか？

～委託研究員制度についてと委託研究員経験者の声～

「教師は授業で勝負！」なので、普段からやりたいことがたくさんあります。私立学校に勤める先生が授業や学校をより良くするための制度って何かあるかな。



それなら日本私学教育研究所の「委託研究員」に応募してみてもどうでしょうか。

委託研究員は私学教員として日々の校務をこなしながら実践研究を行う制度で、毎年全国の私立小学校・私立中学校・私立高等学校・私立中等教育学校の教職員の中から募集しており、国の補助金と日本私立中学高等学校連合会の負担金からなる「研究費」も支給されます。

研究成果は研究所が発行する紀要に報告書を掲載し、年度末には「委託研究員研究成果報告会」で研究成果を発表することで、全国の私立学校の教育の発展に寄与しています。

実際に委託研究員を経験された先生方の声を掲載いたしますので、ぜひ参考にしてみてください。また、研究成果報告会についてもご紹介いたします。

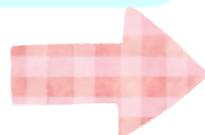


～令和元年度委託研究員の先生方からのメッセージ～

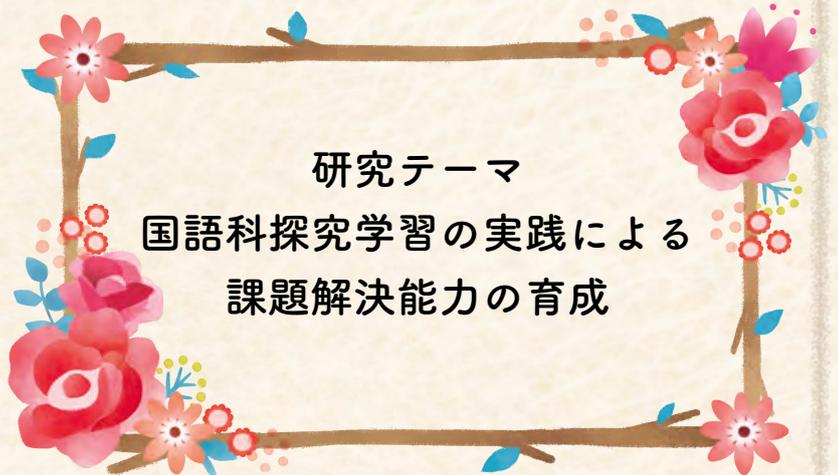


- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ・ 聖和学園高等学校（宮城県） | 佐々木 由佳 先生（国語科） |
| ・ 早稲田大学系属早稲田実業学校中・高等部（東京都） | 中矢 由花 先生（国語科） |
| ・ 同志社中学・高等学校（京都府） | 沼田 和也 先生（技術科） |
| ・ 大商学園高等学校（大阪府） | 井上 大輔 先生（地歴公民科） |

次のページから！



令和元年度 委託研究員経験者の声
聖和学園高等学校(宮城県) 佐々木 由佳 先生(国語科)



研究テーマ

国語科探究学習の実践による
課題解決能力の育成



Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

国語探究という学校設定科目を立ちあげるにあたり、校長先生より研究内容があるので実践してみてもどうかというアドバイスを頂き、推薦を受けたため。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点がありましたか

期限があったため、はじめがついて良い研究活動になりました。委託研究員という立場で客観的に授業を組み立てることができ、他の先生方との意見交流も学校内でしたがすることができました。また、校長先生からも指導を受けることができました。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

研究員としての研究は初めてでしたので戸惑いましたが無事終了し、楽しい1年でした。研究員の先生方との交流の機会があれば、視野も広がり深いものになったと思います。次のチャンスがあれば、別のテーマでもう1年研究員として勉強してみたいと思います。

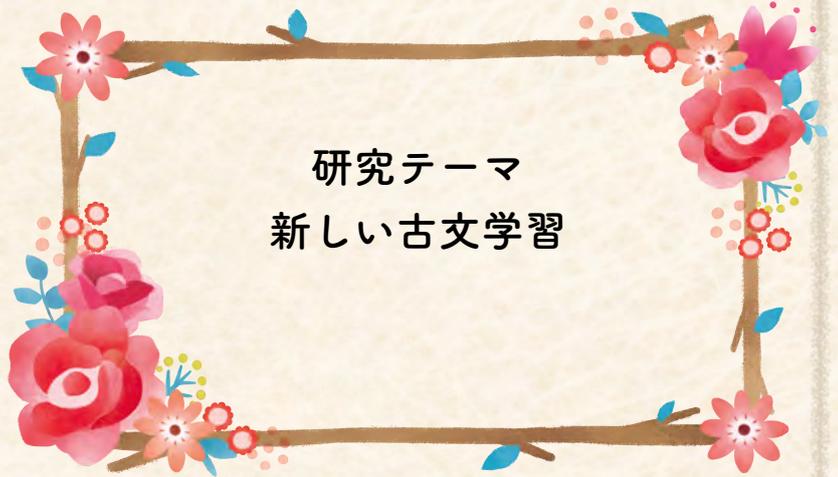
Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

学校という組織から全国の研究員の方々へと世界を広げて交流することができる良い機会だと思います。楽しんで研究を進めてください。



令和元年度 委託研究員経験者の声

早稲田大学系属早稲田実業学校中・高等部(東京都) 中矢 由花 先生(国語科)



研究テーマ 新しい古文学習



Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

日々勤務校での授業準備やその他業務をしていく中で、自身の目的意識を高く持ち続け、新しい教育法や内容を常に考え、実践していく動機付けとしても良いと考えました、又、ふだん他校の教員の方々の実践報告を得る機会をなかなか持てないので、それを得るためにも良い、と考えたので応募致しました。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点がありましたか

「古文の授業とはこういうもの」と、今までに受けてきた授業にマンネリ化（又は苦手視）を感じていた生徒も、新しい試みを面白く感じたようで、自分たちで積極的に考察する等、喜びながら古文を学ぶようになりました。又、英語科との連携というテーマのため、英語科の先生方と討議を重ねましたが、英語科とは根本的に教育の方法や内容が違っていると分かり、今の学校教育そのもの（各教科に何を求めているのか）を考える機会にもなりました。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

この研究のために色々な資料を読んだり、学生時代学んだけれども忘れてしまいつつあったものを思い出して学び直したり（国文学専攻で「文学」の身として、「言語学」の方を忘れつつありました）、他教科のことも学んだり、自分の担当科目の授業準備を超え、幅広く学び直すことができ、とても楽しかったです。幅広く学んだ分、アイデアも色々浮かび、より良いものを生徒に渡すための在り方を考えていく糧となりました。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

頭ではこうしたいと思いつつも、日々の業務の中で考えがまとまらなくなったり、新しいことを学ぶ時間が取れなかったりして結局「いつもの」授業になってしまうこともあると思います。委託研究員として、という気構えがあると、そういう自分を励ますこともできますし、他の先生方にも発信して一緒に考察・考案していく根拠にもなります。教育の在り方や入試制度等が変わる今だからこそ、より意義深い制度だと思えます。

令和元年度 委託研究員経験者の声

同志社中学・高等学校(京都府) 沼田 和也 先生(技術科)



研究テーマ

国際的なSTEM/STEAM教材の 考察と実践

Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

中学の教員であっても、大学の先生のように研究テーマを持って自己研鑽に励んだり、教員自身が探究心を持って職業生活を営むことが大切であるから。紀要の発表機会をいただけるのも魅力。紀要を書くことによって、できない自分と向き合うことができ、謙虚になれる。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点はありましたか

日頃から生徒に「探究」「研究発表」等を求めている以上、私自身が探究心を持って研究しなくては、と思っています。人様に報告する文章を書くたびにできない自分と向き合うことになり、それが、学問に対しても生徒に対しても謙虚になることができます。それが自分にとってもプラスです。学校や同僚に対しても委託研究員の制度を身をもって広めることができたので、組織としてもプラスだと思います。

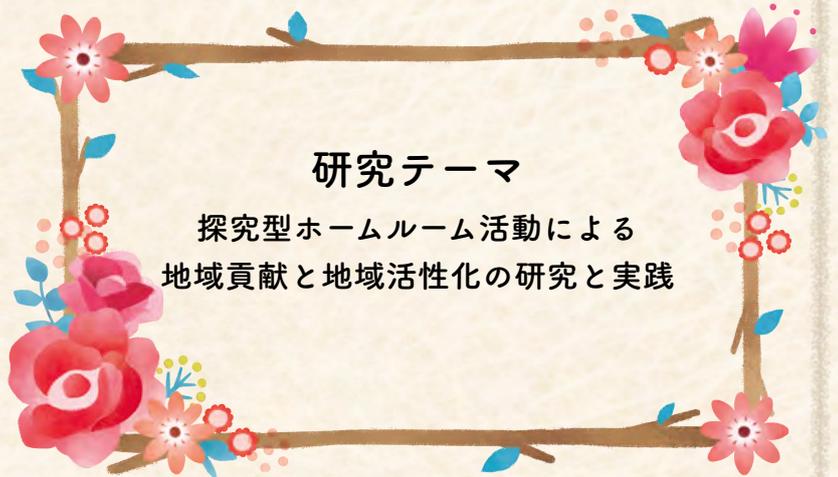
Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

私は広義の教育という営みは、国境も立場もこえるものだと思っています、それを実践するために足で繋がりを作りながら細やかな機会をつくってきました。年度末、コロナウィルスの広がりにより、年分の計画が飛んでしまったことは残念です。コロナ後の教育の世界を、国境や立場をこえていかに創造していくかが問われると思っています。委託研究員としては終わりですが、私の目標に向かって、今年も来年も研究し、実践していくつもりです。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

いつも生徒に対して「探究心が大切である」とか「研究論文とは云々」と言っているが、私自身がチャレンジしていないのは良くないと思いました。いざそれに取り掛かろうとするとできない自分に気づき、浅はかなものしか持っていなかったことを痛く受け止めるしかありませんでした。しかしこの体験は私に謙虚さを教えてくれました。等身大の自分を見ることができて逆にエネルギーが湧いてきました。研究を真ん中において、教職員同士がつながりあえる。素敵だと思います。

令和元年度 委託研究員経験者の声
大商学園高等学校(大阪府) 井上 大輔 先生(地歴公民科)



研究テーマ

探究型ホームルーム活動による
地域貢献と地域活性化の研究と実践

Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

自分が今まで取り組んできた探究活動が、どれくらい影響のあるものなのかを全国の先生方に知っていただき、研究発表会の際にいただいた様々な意見をふまえて、更なる発展ができる探究プログラムを作りたかったから。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点がありましたか

- ・探究教育に興味を持つ生徒・教員が出てきたこと。
- ・本校の取り組みを全国規模で知ってもらうことができた。
- ・HRの中で探究ができることが分かった。
- ・生徒の思考力、判断力、表現力が高まった。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

慣れないことも多く、周りの人との連携に時間を要したが、今まで本校でやっていなかったことを全国規模で行うことができ、大変良い経験となった。又、今回の研究の反省点を今後の私の教育活動の中で改善していき、より良い探究活動ができるようにしていきたい。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

自分自身の取り組みと、全国中の私学の先生方の取り組みを比較することができ、今まで以上に自分の教育観を考える時間を作ることができます。是非、10年20年後の社会で活躍する人材を作るべく、先生方の持っている知識・技能を大いに使ってください。



委託研究員研究成果報告会について

委託研究員研究成果報告会は、毎年2月～3月中に2日間に分けて実施されます。毎年多くの私学関係者及び教育関係者が出席します。

昨年度は特定研究テーマである「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業デザイン」に関する実践研究が中心でした。

全国各地の委託研究員が写真や動画を用いるなど、工夫を凝らして各校での取り組みの様子を発表していました。



小学校・中学校・高等学校、それぞれの校種の先生が集まるだけでなく、委託研究員が専門とする教科・科目も様々です。自分が専門とする教科・科目以外の発表を聞くことにより、多くの刺激を受けることが出来るのも報告会ならではの光景です。

委託研究員はもちろん、報告会に出席した傍聴者からも積極的な質問が飛び交います。

委託研究員は自らの実践に関する省察を行い、参加者は他校の取り組みを知ることで知見を深めることができます。



研究成果報告会に参加するメリット

1

他の私立学校の実践を知ることができる。

2

自校でも活用のしやすい取り組みを知ることができる。

3

多様な校種・教科・科目の取り組みを学ぶことができる。

4

他校の先生との繋がりをつくることができる。

令和2年度 委託研究員研究成果報告会のご案内

●日時 令和3年3月13日（土）および令和3年3月27日（土）の2日間
両日とも10時～17時20分 ※1日のみ・部分参加も可能です。入退室自由。

●会場 主婦会館プラザエフ

※今年度は会場に来場しての参加と、会場からのLIVE配信の視聴による参加を選択することが出来ます。

アクセスマップ



〒102-0085 東京都千代田区六番町15
JR「四ツ谷駅」麴町口 徒歩1分
東京メトロ丸ノ内線「四ツ谷駅」1番出口 徒歩3分

◆【第1回】 令和3年3月13日（土）

9:30	10:00	10:20						17:20	
受付	開会式	研究成果報告A			昼食	研究成果報告B			質疑応答・講評・閉会式
		No.1~3	休憩	No.4~7		No.8~11	休憩	No.12~15	

◆【第2回】 令和3年3月27日（土）

9:30	10:00	10:20						17:20	
受付	開会式	研究成果報告C			昼食	研究成果報告D			質疑応答・講評・閉会式
		No.16~18	休憩	No.19~22		No.23~26	休憩	No.27~30	

※報告順は未定です。令和2年12月中に改めて当研究所HPでお知らせいたします。

※昼食のご用意は致しませんので、近隣の飲食店をご利用ください。なお、昼食時間は13:00～14:00を予定しておりますが、報告人数などにより変動する場合がありますのでご了承ください。

※運営上の都合により、一部日程が変更になる場合もございますので、予めご承知おきください。

令和2年度 委託研究員 研究題目 (研究領域/学校名/研究員氏名) ※順不同・敬称略

主体的に学び合う言語教育「ランゲージアーツ」の研究 (国語教育/北星学園女子中学・高等学校/高野 路子)

粒子を基本単位として小・中学校理科の物質に関する学習を系統だてる (理科教育/聖ウルスラ学院英智中学校/佐藤 雄一)

総合的な学習を英語で行うCLIL授業とその効果的な評価についての研究
(総合的な学習/横浜女学院中学・高等学校/白井 龍馬)

ICEモデルに基づく、学校設定科目「数学探究I・II」の授業デザイン (数学教育/三浦学苑高等学校/安宅 隆)

自校史と主体的に向き合う生徒育成のための教育実践研究 (歴史教育/逗子開成中学・高等学校/片山 健介)

「博学連携」による思考力・判断力・表現力を育む日本史教育の考察と実践的研究 (歴史教育/学習院高等科/會田 康範)

協働学習を通じて学びを深める理科授業のユニバーサルデザイン (理科教育/青稜中学・高等学校/山田 紋)

『主体的・対話的な学び』を実現する高等学校地理におけるフィールドワーク (地理教育/駒澤大学高等学校/高木 佑也)

中高一貫教育校における幾何教育カリキュラムの現状調査研究 (数学教育/武蔵高等学校・中学校/赤間 祐也)

「メディア情報リテラシー、ICT活用能力、思考のプロセス、および学校図書館活用教育」を包括的に捉えた指導体系表の開発
(情報活用と学校図書館/工学院大学附属中学・高等学校/有山 裕美子)

「本質的な問い」を中心にした歴史総合を見据えた授業デザイン (歴史教育/啓明学園中学・高等学校/佐藤 竜之)

PBL型国際協力授業における生徒達の主体性や対話を引き出すための言葉かけに関する研究
(コミュニケーション/聖徳学園中学・高等学校/山名 和樹)

数学との教科横断を意識した物理実験の実践とその効果 (理科教育/明治大学附属明治中学・高等学校/伊藤 慧)

異学年合同学習モデルの構築とその効果 (教育方法/桐朋学園小学校/有馬 佑介)

「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指した教員研修システムの開発と実践 (教員研修/大同大学大同高等学校/伊藤 佳貴)

言葉による「見方・考え方」を育てる高等学校国語科授業デザイン (国語教育/名城大学附属高等学校/岡田 智)

電子書籍を活用した読書指導の実践研究 (国語教育/京都学園中学・高等学校/伊吹 侑希子)

ロボットと数学の融合授業による、AI型ディープラーニング授業の開発 (数学・情報教育/東山中学・高等学校/羽田 法寿)

SDGsの意識を涵養する社会科地理分野のカリキュラム開発 (社会科教育/立命館宇治中学・高等学校/砂川 真璃)

「だれのために学ぶのか」を意識した授業づくり (英語教育/帝塚山学院中学・高等学校/山本 賀世)

SDGsを活用した「主体的で深い学び」を目指す実践の研究 (道徳教育/関西大学第一中学・高等学校/小篠 幸)

中学数学科における「主体的・対話的で深い学び」に繋がる個別最適型授業の実践
(数学教育/初芝富田林中学・高等学校/和田 直也)

『総合的な探究の時間を中心とした体験活動が非認知能力に及ぼす影響に関して』
(総合的な探究の時間/神戸学院大学附属中学・高等学校/森永 武人)

開星中学・高等学校「進学探究」コース設立への挑戦 (研究開発/開星中学・高等学校/倉掛 裕喜)

「主体的・対話的で深い学び」を実現する協働探究学習プログラム開発 (探究学習/岡山中学・高等学校/林 秀俊)

グローバルとローカルの間立つ教育 (私学の地域との関係/広島学院中学・高等学校/松村 康平)

技術科における保健体育科の見方・考え方を働かせた教科横断型授業実践 (技術教育/野田学園中学・高等学校/天川 勇二)

「主体的・対話的で深い学び」を促す授業実践を目指した、教員のICTリテラシー習得への道のり
(教員研修/坂出第一高等学校/那須 敬弘)

「地理総合」を見据えたESD授業の開発と実践 (地理教育/愛光中学・高等学校/松下 直樹)

私学だからこそ「特別支援教育」を (特別支援教育/長崎玉成高等学校附属中学部/上戸 綾子)

※報告日時は2020年12月中に決定いたします。詳細は当研究所HPをご覧ください。

委託研究員制度紹介&

経験者による対談動画を公開！

現在、研究所ホームページにおいて、委託研究員を経験された先生方による対談動画を公開しています。

対談前半の「委託研究員としての活動を振り返って」では、研究員への応募～委託研究員としての一年～終了後の自身や生徒の変化について、ざっくばらんに語っていただきました。

対談後半の「教員を志す大学生・大学院生に向けて」では、昨今の教員不足を踏まえた「もっと教員になりたい人が増えてほしい！」という願いや、「教師」という職業に対する想いを語っていただきました。

現職の先生方にとっては、委託研究員としての活動や他校の様子を知る資料として、教師を志す大学生・大学院生の方にとっても、「教師」という仕事に関する理解が深まると同時に、教育現場の様子が分かる貴重な動画となっています。ぜひ、ご覧ください！



早稲田大学系属早稲田実業学校中等部・高等部

中矢 由花 先生（国語科）

令和元年度委託研究員

早稲田大学系属早稲田実業学校中等部・高等部

佐藤 貴明 先生（英語科）

平成30年度委託研究員

研究所HPの委託研究員関連ページには、こちらのQRコードからも入ることができます！



<http://www.shigaku.or.jp/study/index.html>

委託研究員になるには

委託研究員は毎年12月初旬頃から募集を開始しています。各私立学校に郵送で募集要項等をお送り致しておりますので、詳細はそちらをご確認ください。また、ご質問等ございましたら、お気軽に研究所までお問い合わせください。

① 委託研究員への応募資格

- ・私学教育に5年以上携わり、現在私立小学校、私立中学校、私立高等学校、私立中等教育学校の専任教職員である方。
- ・応募書類提出年度の時点で満65歳未満の方で、翌年度も同校の専任教職員である方。
- ・委託期間は1年間です。また、委託期間終了後、再応募する場合には2年以上の期間をあけてください。
- ・毎年30名程度募集しております。



② 研究テーマについて

- ・委託研究員として取り組む研究は、私立学校での初等・中等教育の実践ならびに私学経営の発展・向上などを図るとともに、私学の教職員としての力量向上を目指すものです。
- ・私学教育が持つ個性や自主性・先見性などを発揮する上で必要とされる課題解決に役立つ実践研究・事例研究・アクションリサーチを対象としてください。

③ 研究費と紀要について

- ・委託研究員には研究費として200,000円が支給されます（令和元年度実績）。
- ・委託研究員として研究した内容は論文としてまとめていただき、研究所の『紀要』に掲載されます。



委託研究員の任務



① 『紀要』原稿の執筆

- ・研究成果は文部科学省への研究報告書に掲載するため、年度末の定められた期日までにおよそ5,000字程度の原稿として提出していただきます。また、その原稿は、当研究所の『紀要』に掲載し、年度末の報告会で、上記原稿に基づいて発表していただきます。

② 研究所主催研修会における講師

- ・当研究所主催の研修会において、講師として研究成果を発表していただくことがあります（委託期間終了後にお願いすることもございますので、予めご了承ください）。





所在地

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階

TEL: 03-3222-1621

FAX: 03-3222-1683

アクセス

JR総武中央線 市ヶ谷駅 徒歩5分

東京メトロ有楽町線・南北線、都営新宿線 市ヶ谷駅 A4出口徒歩3分

一般財団法人

日本私学教育研究所

-The Education Institute for Private Schools in Japan-

日本私学教育研究所

検索



ホームページQRコード